

1. 概要

10月議会選挙に向けた各党の党内選挙を一斉に8月7日に行うことが大統領令により決定された。キルチネル大統領とドゥアルデ前大統領は、最大の票田を持つブエノスアイレス州からのペロン党候補者リストを巡って交渉を続けている。

外交面では、キルチネル大統領のドイツ及びバチカン訪問、国連人権委員会における「キューバ人権状況決議」案に対する棄権、エクアドル情勢について懸念を表明するコミュニケの発表、マルビーナス（フォークランド）諸島等を適用範囲と規定するEU憲法条約について遺憾の意を表明するコミュニケの発表等がなされた。

2. 内政

(1) 10月議会選挙

(イ) 5日、ドゥアルデ前大統領は、一部の支持者から求められていた10月議会選挙への立候補の可能性を否定した。

(ロ) 7日、アニバル・フェルナンデス内相は、10月の議会選挙における各党の候補者等を決める全政党の党内選挙を8月7日に同日一斉に実施する旨発表した。同党内選挙は、公開選挙であり、無党派層も政党を一つ選定して党内選挙に参加することができる。

また、同内相は、州議会議員等地方レベルの選挙に関しても、選挙キャンペーンの時間を節約し、有権者に各党の政策、方針等を説明できる十分な時間を候補者に与えるために、同日（8月7日）に党内選挙を行うよう呼びかけた。

(ハ) 27日、ペロン党ブエノスアイレス市支部の新執行部発足式が行われ、支部長に就任したアルベルト・フェルナンデス首相等約4000人が参加した。政府・与党は、これを機に10月の議会選挙に向けた選挙キャンペーンを本格的に開始したと見られている。同集会では、10月の議会選挙におけるブエノスアイレス州選出の上院議員立候補の可能性に関して沈黙を守ってきたクリスティーナ大統領夫人（サンタクルス州選出上院議員）の発言が注目されていたが、同夫人は、自身の立候補に関する明言を避けて支持者に向かってキルチネル大統領への支持を訴えた。同州のペロン党候補者を巡っては、キルチネル大統領とドゥアルデ前大統領の交渉が続けられている。

(2) 失業中世帯主に対する補助金制度

(イ) 27日、ラバーニャ経済相は、失業中世帯主に対する補助金制度を期限付き（おそらく1年）の失業保険制度に変える案を検討していると共に、同改正案は、キルチネル大統領も了承済みであると述べた。

(ロ) この発言に対して、補助金引き上げ(毎月150→350ペソ)を求めている様々なピケテロ・グループが反発した。政府寄りピケテロ・グループFTVのデリア代表は、同改革案に対するキルチネル大統領の同意はないと述べた。

(3) メネム元大統領

(イ) 13日、スペロニ連邦判事は、メネム元大統領の不正蓄財疑惑に関して、十分な証拠がないとの判断を下した。

(ロ) 18日、メネム元大統領は、資産隠匿疑惑に関するオジャルビデ連邦判事の尋問に対して、同疑惑の関与を否定した。

(ハ) 19日、メネム元大統領は、刑務所建設の入札不正疑惑に関するウルソ連邦判事の尋問に対して、同疑惑の関与を否定した。

(4) 軍政期の人権問題

(イ) 1日、連邦控訴裁判所(第二審)は、軍事政権下での人権侵害に対して、1989年及び1990年にメネム元大統領が行なった恩赦について違憲判断を下した。今次判決により、控訴裁判所が、昨年3月に第一審が下した違憲判断を認める形となった。

(ロ) 被告側が今次違憲判決に対して上告する場合、本件は、刑事破毀裁判所及び最高裁に持ち込まれることになる。

(5) サンタフェ州刑務所暴動事件

(イ) 11日夜、サンタフェ州コロンダ市(州都サンタフェ市より45キロ南に位置する)の刑務所において、囚人同士の抗争が激化、暴動が発生し、囚人13名が死亡、6名が負傷した。また、同暴動中には、看守2名が人質に取られる場面もあった。

(ロ) 同暴動の発端は、10日にサンタフェ市のギャングのリーダー1名が、対立するロサリオ市のギャングによって殺害されたことに対する報復のため、サンタフェ市出身の囚人がロサリオ市出身の囚人を襲ったことであり、同州のギャング抗争が刑務所内に持ち込まれた形となった。

(ハ) 12日、人質となっていた看守2名が解放され、同暴動は終結した。

3. 外交

(1) ドイツ

(イ) 12-16日、キルチネル大統領は、シュレーダー首相、ケーラー大統領(前IMF専務理事)等と会談するため、独を訪問した。

(ロ) 14日の首脳会談において、キルチネル大統領は、シュレーダー首相に対し、亜の対民間債務問題に関し、IMFとの合意を得るためには、G7において独の支持が必要であると訴えた。これに対し、シュレーダー首相は、独の亜への支持は疑いの余地がないと答

えた。シュレーダー首相は、国連改革に関し、安保理常任理事国拡大に対する支持を要請した。なお、亜は常任理事国拡大には反対の立場を取っている。

(ハ) 同日、キルチネル大統領は、ケーラー大統領と会談した。ケーラー大統領は、IMFとの合意が得られるよう独は亜を支持すると述べた。

(ニ) また、ビエルサ外相は、フィッシャー独外相と会談を行い、ラ米地域情勢や人権問題等について意見交換を行った。

(ホ) 15日、キルチネル大統領は、Max Planck 研究所を訪れ、5年間で教育予算を国内総生産の4%から6%に引き上げることを約束した。

(2) バチカン

(イ) 8日、故ローマ法王の葬儀に、亜を代表してシオリ副大統領、ビエルサ外相、オリベリ外務副大臣(宗務担当)がバチカンを訪問した。キルチネル大統領は、新ローマ法王の就任式には出席すると述べて、同葬儀を欠席した。

同葬儀には、ドゥアルデ前大統領及びメネム元大統領も出席し、両元大統領は宿泊先のホテルで会談した。

(ロ) 23日、キルチネル大統領は、バセオット司教の軍司祭解任は撤回できるものではなく、既に終わったことであると述べた。

(ハ) 24日、キルチネル大統領は、新ローマ法王の就任式に出席した(クリスティーナ大統領夫人(上院議員)、アルベルト・フェルナンデス首相、アニバル・フェルナンデス内相、ビエルサ外相、オリベリ外務副大臣、ソラ・ブエノスアイレス州知事、アルフォンシン元大統領等同行)。

(3) キューバ

(イ) 13日、ドイツを訪問中のキルチネル大統領は、国連人権委員会における「キューバ人権状況決議」案に関して、「我々は、ハイチに行ったような支援を除いて、他国の問題には干渉しない。亜の立場は、棄権である」と述べた。

(ロ) 14日、亜は、同決議案に関して昨年に引き続き棄権した。亜は、ドゥアルデ前政権の2003年より棄権の立場をとっている。

(4) 国連安保理改革

11日、タイアナ外務副大臣(外交政策担当)は、ニューヨークで開催された「コンセンサスのための結集会合」に出席した。同副大臣は、国連安保理改革に関して、安保理常任理事国拡大案を支持せず、安保理改革を成功に導くためのカギは、主権に基づいた平等及び平等な民主的代表的代表制を強化することであり、モデルBはより広範な民主的な基盤を有していると考えていると亜の立場を説明した。

(5) エクアドル

20日、亜外務省は、コミュニケを通じて、グティエレス・エクアドル大統領の亡命を巡る同国情勢について、友邦であるエクアドルが直面している重大な制度的危機に懸念を表明した。

(6) 南米共同体

18日、ブラジルで南米共同体外相会合が行われたが、ビエルサ外相は、南米共同体について議論する前にメルコスールを強化すべきであると述べて、同会合を欠席した。

(7) EU

27日、亜外務省は、コミュニケを通じて、EU 憲法条約が、亜が領有権を主張するマルビナス諸島等を適用範囲としていることに関する遺憾の意を表明した。

(8) 米国

26日、ビエルサ外相は、亜で開催された国際刑事裁判所に関するセミナーにおいて、米国との共同軍事演習における米兵に対する特権免除は行わないとの亜の立場は変わらないと述べた。

(9) スペイン

(イ) 19日、西の全国管区裁判所は、亜軍政期における人権侵害（殺人、違法拘禁、拷問）に関与したとして、人類に対する罪等でシリngo元亜海軍大佐に対して禁固640年の有罪判決を下した。但し、実際には、同被告は、禁固刑に30年という上限を定める西刑法に基づき、30年間刑務所に服役することになる。

(ロ) 亜軍政期の人権侵害に関する外国の裁判に亜元軍人本人が出廷して判決を受けるのは、これが初めてのことである。

(ハ) シリngo被告弁護側は、今回の判決に対して最高裁に上告すると述べた。

(ニ) ロサッティ亜司法相は、人権分野における外国の司法管轄権や国際機関による司法管轄権を尊重すると述べた。

(10) 要人往来

(イ) 来訪

4月6日 レプラ・ウルグアイ・エネルギー相

4月27日 ジル・ブラジル文化相

(ロ) 往訪

4月5－8日 シオリ副大統領、ビエルサ外相のバチカン訪問（故ローマ法王葬儀参列）

- 4月7－12日 ラバーニャ経済相の訪日（沖縄 IDB 総会出席）
- 4月10－11日 ビエルサ外相の訪米（OAS 事務総長選挙）
- 4月12－16日 キルチネル大統領の訪独（シュレーダー首相、ケーラー大統領と会談）
- 4月15－18日 ラバーニャ経済相の訪米（IMF・世銀総会出席）
- 4月15日 デビード公共事業相のオーストリア訪問（国連産業開発機関会合出席）
- 4月18－22日 シオリ副大統領のロシア訪問（フラトコフ首相、ラヴロフ外相等と会談）
- 4月22－25日 キルチネル大統領のバチカン訪問（新ローマ法王就任式出席）
- 4月26－27日 シオリ副大統領の訪米（パウエル前米国务長官等と会談）
- 4月28－29日 ビエルサ外相のグアテマラ訪問（ベルシェ大統領等と会談）
- 4月28－29日 アルベルト・フェルナンデス首相、トマダ労働相、クリスティーナ大統領夫人（上院議員）等のウルグアイ訪問（メルコスール政党非公式会合出席）
- 4月30日－5月2日 ビエルサ外相の訪米（OAS 事務総長選挙）